

平成23年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

「うつのみや学校マネジメントシステム」

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

<合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子>

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ① あいさつの推進（心から、自ら進んで、元気に、相手の目を見てあいさつができる子をめざす）
- ② 授業の充実（楽しく、分かる授業をめざす）
- ③ 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- ④ 道德教育の充実（豊かな心と道德的実践力の育成をめざす）
- ⑤ 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- ⑥ 「食の豊かさ」を追求する食育指導の充実（「生きる基本としての食」の意識づけをめざす）

4 今年度の重点目標（短期的視点）

☆本年度の努力点（行動規準表：本年度の努力点）

【学校運営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道德教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

☆ 教職員として職務意識の高揚と自主課題に基づく実践研究等による資質の向上に努める。

【児童生徒指導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 基本的な生活習慣を身に付け、互いに認め合うことのできる児童を育成する。

【健康・体力】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

【学習指導】

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基礎・基本の確実な定着を図り、考える授業・話し合う授業を進める中で、互いに学び合うことのできる児童を育成する。

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）（評価指標の【全】は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を評価欄に記入

※昨年度との数値の比較を表示 例）肯定的回答 96.4%↑（87.3%）（ ）の中は昨年度の数値、昨年比上昇↑、下降↓

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。【全】 【数値指標】 児童アンケート「自分は、今の学校が好きである」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」を設定し実施する。 ② 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	【達成状況】 ・「自分は、今の学校が好きである」についての児童の肯定的回答は 94.7%で、昨年の 94.9%とほぼ同じであり、十分達成されている。保護者は 90.8%↓（昨年度 92.0%）、地域住民 94.4%↑（昨年度 90.9%）と 9 割を超えており、各種教育計画が良好に行われていると考えられる。 【次年度の方針】 ・なかよし活動では本年度新たに「なかよしチャレンジ」を児童主体で行い、成果を得られた。次年度も本年度の反省を生かしながら同様に実施する。 ・幼・保・小連携として、次年度も特設時間を設け、幼稚園や保育園との交流活動を実施する。 ・「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」は、次年度は時間を増やして実施する。 ・「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、本年度の反省から修正を加え、継続して実践していく。 ・小中一貫教育の完全実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。

A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかりと指導する。 ② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。 ③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。(新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり)	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.9% (保護者 85.7%, 地域住民 87.5%) であり達成できている。 【次年度の方針】 ・学校生活において、教職員一人ひとりが同一歩調で児童の生活指導、安全確保に努める。 ・ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声かけなどのコミュニケーションを継続していく。 ・おはなしタイムの時間が確保は、在籍数が多い学級のことも考慮し、期間を3週間にし、引き続き金曜日もロング昼休みにして実施する。 ・本年度同様に、欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。 ・保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし、また誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 ・本年度新たに「校内自主研修」として職員の資質向上のための研修を行い、成果を得られた。次年度も引き続き計画し、実践していく。 ・組織として機能できるようこれからも校務分掌業務に対して主体的に取り組んでいく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、6月・11月・2月の3回自己評価をする。 ② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定と、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。生活の振り返りを行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 85.8%↑ (保護者 83.0%, 地域住民 87.5%) であり達成できている 【次年度の方針】 ・「生活と学習・10の約束」は、児童の実態に応じて、その都度必要な指導項目について児童と共に確認し、定着を図る。 ・年3回の自己評価は、学級の児童の様子を把握したり、おはなしタイムに活用したりして効果的に活用する。 ・週目標の期間を2週間とし、児童への意識付けと定着を図るようにする。 ・学年朝会を利用し、全体での指導や振り返りも行うようにする。

A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 自己研修と授業力向上のためにICTを活用した「一人一授業」(研究授業)を実践する。 ③ 『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上についての「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、95.4%↑(93.8) 保護者 96.5%↑(67.7), 教職員 100.0%↑(97.0)と高い値を示した。 【次年度の方針】 ・学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ・教材研究の時間を確保するため、会議の見直し・進め方の工夫したり下校指導の見直しをしたりする。 ・ICTと特定せず、広く「分かる授業」の実践に努める。(②について)
A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行うなどしたりして、児童の成就感や存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。	【達成状況】 ・「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」についての児童の肯定的回答は 93.3%で、昨年の 93.4%とほぼ同じであり、十分達成されている。保護者は 90.4%↓(昨年度 93.6%)とやや減少したが、地域住民 100%↑(昨年度 84.3%)と著しい増加が見られた。昨年度の反省のもと諸計画が適切に実施された。 【次年度の方針】 ・授業の時数を確実に確保するため、次年度も長期休業中に3日間授業日を設ける。 ・前年度の反省を考慮し、高学年児童がリーダーシップをとって活動できるよう「なかよしチャレンジ」を児童会主催にしたことや縦割り清掃を実施したことは有益であったため、次年度も継続して実施していく。 ・就学時健康診断は5年児童が係りを行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることが出来る。本年度実施してその効果を検証し、次年度へつなげていく。 ・これからも授業参観の際、保護者や地域住民にアンケート調査を行い、その結果を分析し、今後の教育課程に反映させていく。 ・教職員による各種行事の反省は、主務者を中心に速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。

学 校 運 営 の 状 況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。 〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。 ② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。 ③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 94.2%で、昨年の 94.7%とほぼ同じであり、十分達成されている。地域住民も 94.4%↑(昨年度 90.9%)と高い値を示した。 ・「オープンスクール」は朝の会から帰りの会まで公開したことにより、保護者や地域住民、近隣の小中学校の職員の方は都合に合わせて来校することができた。 ・授業参観の際、授業の内容や見所・道徳リーフレットなどを作成し、配付することにより、参観者への理解を得ることができた。 【次年度の方針】 ・授業参観や「オープンスクール」については、引き続き地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけていく。特に幼稚園・保育所とは、お互いに参観し合い、共通理解を深めたい。 ・児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を 1 年間に 1 回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。 ・学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。 ・危機管理情報は、電話連絡網を中心として、メール配信を行い、情報を速やかに伝えられるようにする。 ・校長室だよりは学校の詳しい情報を知らせることができたので、継続して発行していく。 ・小中一貫教育として、本年度「図書びより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。
--	--	--	---

A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。 ③ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	達成状況】 ・ 肯定的回答は、児童 92.5%(94.8%)、保護者 81.9%(86.5%)ともに昨年度を下回ったが、教職員は 97.0%と昨年度同値、地域住民は 85.7%(78.7%)と、昨年度を上回った。 【次年度の方針】 ・ 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指し、一般の保護者の方にも積極的に参加を呼びかけ拡充していく。「教育講演会」は、今年度は、緊急時の保護者引き取り訓練に変更したため実施できなかったが、次年度は積極的に実施する。 ・ 地域の幼稚園・保育所との交流活動により、児童には普段見られない年長者としての姿が見られた。次年度も引き続き交流の場を設ける。 ・ 「五代夏まつり」では、児童はよさこいソーラン等参加し、地域の方々と交流を深めることができた。また、職員も神輿担ぎ等参加し交流できた。次年度も同様の参加方法で検討していく。 ・ 保護者及び地域協議会安全安心部会の情報、スクールガード・アドバイザーの指導を生かし、学校・家庭・地域連携を密にしながら、児童の登下校の安全確保に努める
--	--	--

A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすく気持ちのよい環境である」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。 ② 昨年度に引き続き、学年清掃を行い、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	【達成状況】 ・児童・保護者・教職員の肯定的評価は、昨年度に比べ、下がっている。特に教職員の肯定的評価は、52.9%↑(47.0)低い。 ・各分担、各学年のアイディアにより職員室前の掲示、特別教室廊下、階段踊り場等季節感ある掲示ができた。教室内の掲示も計画に沿って、整った掲示ができた。 【次年度の方針】 ・児童数の増加に伴い空き教室が無く、資料室として使用する場所が狭くて体が入らない。教材教具をスムーズに取り出せるよう整備・表示をする。 ・本年度に引き続き、年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。 ・本年度の反省に基づき、なかよし班を活用した、縦割り班清掃を実施していく。
A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童指導委員会、特別支援委員会、校内研修会等を計画的に行い、課題や現状を踏まえ、ねらいを明確にして検討し、具体的な指導法について実践化を図る。 ② 懇談会、個人懇談等で、学級経営方針の説明や進捗・達成状況を伝えたり、授業の意図をより分かりやすく伝えたりして理解を得ていく。 ③ 児童理解のための各種委員会の充実を図るとともに、授業力を上げるために、一人一人の教員が自己研修として「分かる授業」を工夫し、実践する。 ④ 児童の理解を深め、表現力を高めるためにICTを活用した授業を積極的に行う。 ⑤ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	【達成状況】 ・教職員の肯定的評価は、97.0%↓(100.0)と高い値を示した。保護者の肯定的評価は、70.8%↓(71.9)と低い値を示している 【次年度の方針】 ・保護者に対して、懇談会、個人懇談等で、学級経営方針の説明や進捗・達成状況を伝えたり、授業の意図をより分かりやすく伝えたりして理解を得ていく。 ・学年会等で教材研究ができたり、教科部会等が開けたりできるよう、下校指導方法の改善、会議・研修の精選をし放課後の時間の確保する。 ・お互いに授業を見せ合うことは自分の授業力の向上にもつながるため、今後も継続する。 ・教師一人一人が、どのように授業展開を行うかについて考えられる時間の確保をしていく。 ・児童理解のための各種委員会の機能を十分引き出せるよう計画的に開催し、実態を踏まえた対応策を検討し、教職員に共通理解を図りながら実践する。

	B 1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「自分は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上		① 昨年に引き続き、低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的評価は、94.1%↑（93.4）と高い値を示した。保護者の肯定的評価は、71.9%↓（72.6）と低い値を示している。児童は、87.2%↑（86.6）と80%を超えている。 【次年度の方針】 ・宿題を適切に出す。 ・自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組を工夫する。 ・授業参観・懇談会、個人懇談、学年だより等で、保護者への協力を常に呼びかける。
教育活動の状況	生 活	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童はあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、臨機応変にも対応する。その際、保護者や地域の方々の協力を得ながら、校内外であいさつ指導の徹底を図る。 ② 「生活と学習・10の約束」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。	B	【達成状況】 ＜あいさつ＞肯定的回答 児童 88.7%↓（89.3%）↑（85.3%） 地域住民 69.4%↓（81.8%）↓（82.1%） 保護者 67.0%↓（72.2%）↓（74.0%） 教職員 79.4%↑（61.7%）↓（85.3%） ＜言葉遣い・返事＞肯定的回答 児童 82.3%↑（80.0%）↑（72.5%） 地域住民 62.8%↓（79.4%）↑（78.5%） 保護者 57.3%↓（62.9%）↓（63.1%） 教職員 79.4%↑（47.0%）↓（58.8%） ・すべての項目のうち、あいさつや言葉遣いに関する項目の保護者・地域住民の値が最も低い結果になっている。3年間減少傾向にもある。また、児童と教職員の認識の差が著しい。あいさつに関しては、児童は3年間目標指数を上回っている。 【次年度の方針】 ・まず、教職員や保護者、地域住民等の大人が自ら率先して児童にあいさつをする。 ・引き続き、児童会を中心としたあいさつ運動を定期的実施（地域協議会と連携し年2回あいさつ運動強調週間を行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ・小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日を次年度も実施する。 ・下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する。（登校班長、縦割り班班長の指導等）

	B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「自分は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、4・6・11・2月に「学校を楽しくするために」アンケートによる実態調査を実施する。 ② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。(5月、10月いじめゼロ強調月間) ③ 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)を充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ④ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ⑤ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。 ⑥ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 91.0%↓(93.2%)、保護者 93.9%↓(94.2%)地域住民 91.1%↓(93.9%)等、昨年より高い値を示した。教職員 100%と児童の認識の差を受け止め指導にあたる。 【次年度の方針】 ・年3回の実態調査は、引き続き児童の実態把握や学級経営、教育相談等に活用する。 ・いじめに関する標語を募集し、校内の掲示板に掲示し、意識の高揚を図る。 ・いじめ根絶集会を行ったり校内放送でいじめゼロの心構えについて呼びかけたりする。 ・おはなし会「ぼけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。 ・教育相談が期間中に終わらない場合は、学級担任裁量で実施時間を確保し、必ず全員実施する。 ・教育相談は、年2回必ず時実施するとともに、必要に応じて各担任が時間を設け、児童一人一人の実態把握や指導・支援に努めるようにする。 ・年3回行う自己評価と併せて、Q-Uテストも児童指導や教育相談に活用する。 ・急を要する指導に関しては、組織等を利用して早期対応に努める。 ・学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。
--	---	--	--

	健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、好き嫌いなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。 ③ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る。 ④ 昨年度に引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 74.1%(73.2%)、保護者は 81.3%(80.6%)となり、いずれも昨年度を上回った。 【次年度の方針】 - 望ましい食習慣と食事マナーでは、食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていくようにする。また給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。 - 食に関する指導では、箸の持ち方ができない児童が多いため、重点化し指導に取り組んでいく。 「食育だより」は、今年度のものから内容を一部変更し、給食レシピや家庭への要望・依頼など、学校からの情報を積極的に発信していく。 「お弁当の日」の取り組みをさらに工夫し、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心をより一層育むとともに、保護者への理解と啓発に努める。
--	-------	---	--	---

	B3 進んで運動に親しみ、健康の保持増進を心がけている。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、よくうんどうし、けんこうにきをつけている」「自分は進んで運動し健康に気をつけている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。 ② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。 ③ 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ、新型インフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ④ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ⑤ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	【達成状況】 ・「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」については、児童の肯定的回答は 87.5%(88.2%)、保護者は 95.8%(97.1%)、地域住民は 94.4%(100.0%)となり、いずれも昨年度を下回った。 ・「児童は進んで運動し健康に気をつけている」については、児童の肯定的回答は 88.2%(89.6%)、保護者は 77.2%(81.2%)となり、いずれも昨年度を下回った。地域住民は 90.0%(78.7%)と昨年度を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・「元気っ子健康体力チェック」については結果の活用を重視し、市・県・全国平均と比較して劣っている項目を絞り込んで、学校全体または学年単位で補強運動として継続的に取り組んでいく。 ・「うつのみや元気っ子プロジェクト」については、ミニマム達成のために各運動種目を体育の授業内容に年間を見通して取り入れるとともに、市から出されている「運動プログラム集」などを参考に、継続的にトレーニングに取り組めるようにしていく。 ・児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント（ドッジボール大会や大なわ大会等）などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。 ・靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・学級活動の健康指導において、歯磨きや靴下・下着の着用、体に合った靴を履く等の指導を行い、児童の健康面の意識の高揚に努める。 ・手洗い・うがい等の励行に取り組み、インフルエンザなどに罹患しない健康な体づくりに一層努める。 ・スタンダードダイアリーについては、今年度同様、家庭との連絡を密にし、指導に生かしていく。 ・交通安全教室や避難訓練、学級活動の安全指導などの内容を充実させるとともに、学校・家庭・地域連携を密にしながら、児童の生活全般における安全確保に努める。
--	---	--	--

学 習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。 ② 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。	【達成状況】 ・保護者 78.6%↓(81.2)・教職員 79.4%↓(88.2)と肯定的評価は、昨年度に比べ、下がっている。 【次年度の方針】 ・朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ、向上を図る。 ・ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。 ・各学級において、「学習の約束」を徹底する。
	B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けとともに、図書室の環境構成や運営(図書だよりの内容の充実等)を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア(「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など)や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	【達成状況】 ・「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」についての児童の肯定的回答は 74.7%で、昨年 80.2%より減少している。しかし、年間一人の平均読書量は、先年度は 23 冊であったが、本年度は 25 冊と増えた。(市の目標冊数は 20 冊)この結果から、読書量や読書への興味・関心には個人差があると思われる。保護者の肯定的回答は 66.2%で、昨年 68.1%とほぼ同じ、地域住民 76.0%↑(昨年度 63.6%)と大きく増えた。 【次年度の方針】 ・読書の量は市の目標を上回ったので、児童の発達段階にあった質的な向上をめざしていく。 ・地域協議会学習支援ボランティア(図書ボランティア)と連携し、図書室の環境整備を行う。 ・読書週間に読書集会や読書郵便、読書ビンゴなどを行ったが、読書週間以外にも「ハロウィンくじ」を行い好評だったので、さらに工夫した取組を考え、実施していく。 ・「雀宮おはなし会」の読み聞かせ後、紹介した本を少しの期間置いてもらい、児童が読む機会を作る。 ・ブックトークを授業にさらに取り入れていく。 ・本年度に引き続き、校長、副校長をはじめ担任を持たない先生も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める。 ・「親子で読みたい本」の紹介を図書便りで紹介する。 ・親子読書を引き続き呼びかけていき、感想の一部を図書便り(号外)等で紹介する。

本校の特色・課題等	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 国語科の学習では「書く」活動を継続して指導し、児童が自分の思いや考えなどを的確に表現できるようにする。書くことによって考え、まとめ、伝える力を育成する。 ② 豊かな表現力を育む音楽活動の展開においては、聴く力や感じる取る力及びコミュニケーション能力における学び合う力、伝え合う力の育成を図る（昨年度の学校課題研究の継続）。 ③ 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。 ④ 日常生活の多様な場において「書く」活動を取り入れ、掲示資料や具体的な活動を通して、他者に分かりやすい表現の仕方など、表現力の育成を図る。 ⑤ 児童の理解に努め、表現力を高めるため、ICTを効果的に活用した授業を展開する。 ⑥ 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。 ⑦ 授業参観後の懇談会等で、表現力育成のために工夫していることや個に応じた指導について説明をするなどして、保護者の理解を得るように努める。	【達成状況】 ・保護者 75.7%↓(80.4)・教職員 79.4%↓(94.1)と肯定的評価は、昨年度に比べ、下がっている。 【次年度の方針】 ・字数を決める、めあてを決めるなど、日記や「書く」ワークシートを工夫する。 ・自他の思いや考えを伝え合う活動として、①②④にも取り組んでいくが、次年度は、会話科や道徳の授業の充実という点から具体的な取組を考える。 ①②④は、国語・音楽を研究していた年の取組ではないか。次年度は、会話科や道徳の授業の充実から具体的な取組を考えると良い。 ・実物投影機が設置され、効果的に活用できた。来年度は、さらに活用していく。 ・「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取組む。
------------------	--	--	--

B6 道徳教育や授業，体験学習や交流活動などで，心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校（高学年：道徳や授業，体験活動など）では，いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の時間では，児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料，心のノートを有効に活用し，心に響く授業の展開に努める。 ② 全校一斉の道徳の授業参観を実施する。 ③ 縦割り班活動や異学年交流などのふれあい活動やなかよしチャレンジ，一日先生などを通して，幼稚園や保育所，地域との交流を図りながら，児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	【達成状況】 ・「学校（高学年：道徳や授業，体験活動など）では，いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」についての児童の肯定的回答は94.4%で，昨年94.8%とほぼ同じである。保護者は77.0%↓（昨年度81.5%）とやや減少したが，地域住民は90.0%↑（昨年度78.7%）と増加した。 【次年度の方針】 ・学校課題として1年間研究してきた成果が表れてきているので，次年度も引き続き研究し深める。 ・読み物資料以外にも，インターネット教材など各種教材を開発し，心に響く授業の展開をする。 ・各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより，より使いやすくしていく。 ・心のノートは常に身近に置いておき，道徳の時間だけでなく日常生活のあらゆる時間に記入することができるようにする。 ・学年便りの「心のまど」のコーナーに時々心のノートからの抜粋を載せる。 ・全校一斉の道徳の授業参観は引き続き実施し，授業のねらい等，保護者や地域の方にパンフレットで伝えていく。 ・なかよしチャレンジは児童主体として高学年児童に活躍の場をもたせる。 ・なかよし班では楽しむ活動だけでなく縦割り清掃を行うなど，充実した異学年交流活動ができるようにする。また，縦割り班活動を増やしていく。 ・デイサービスセンターを訪問するなど機会を設け，高齢者との交流も深める。
---	---	---

6 総合的な評価

- 児童の肯定的回答 80% を数値目標とした項目のすべてが達成率を超え、成果を上げることができた。
特に、90% を上回る項目は、「自分は、今の学校が好きである」、「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」（全項目中最高値 97.9%）、「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」、「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」、「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」、「自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい」、「自分は、地域や企業の方々に、言葉をかけられたり、あいさつされたりする」、「自分は楽しい学校生活を送っている」、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる」、「学校では（道徳、授業、体験活動等）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」等であることから、児童は、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「あいさつ」「言葉遣い・返事」については、昨年度同様に、保護者・教職員において最も肯定的回答率の低い項目となった。また、児童との認識のズレが大きい項目でもある。課題に対しては、様々な活動を行ったが、さらに児童の意識を高め、実践化を図る取組が必要である。地域協議会でも話題にした。
- 保護者・地域住民共に、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」（全項目中最高値：（保）90.4%（地）100%）、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動している」、「児童は楽しい学校生活を送っている」に高い肯定的回答を示した。情報発信については、授業参観における授業の見どころ・道徳の授業全学級一斉公開時の授業パンフレットや学校だより・各種たよりの工夫、ホームページの充実等への取組に成果を上げることができた。

7 学校関係者評価

- 五代の児童（生徒）は元気があると見受けられます。・学校訪問時には「こんにちは」などと良くあいさつしてくれます。
- 集団登校では上級生がきちんと先導して、右側通行を行っています。あいさつすると「おはようございます」と大半の子があいさつを返してくれます。・職員室を含めて、学校全体に明るい雰囲気があると思います。
- 先生方が学校の外であまり挨拶が出来ていない様に思う。先生が挨拶できないのに生徒が出来る訳がないのではと思う。
- 学校全体として児童は学校内外のあいさつが出来熱心に授業をとりこんでいます。
- オープンスクールに合わせて、エアコンの清掃というのは、実施時期に一考要する
- 学校は生徒、地域の安全安心、その他と連携し教育活動と学校運営を協力的によくやっているといます。日々の教育御苦労様です。これからは学校教育も必要だが豊かな人間形成に力を入れてほしいと思います。
- 近所の生徒は明るく元気であいさつ出来ています。今後もご指導のほど、よろしくお願い致します。
- 校外で子供達に合うと「あいさつを受けとても気持ちよい」
- 校区内に老人ホームや、保育園等がある。これらの施設を活用して、老人との交流や幼児との交流を活かした情操教育は？
- 地域行事に学校児童も部活を休んででも参加しよう
- 低学年の児童が下校する様子を見かける事がありますが（安塚街道から天狗町公民館を経て雀宮中方向の道路に入ってくると）両側に分かれて、ばらばらに歩いているようです。家が近づいて気がゆるむのでしょうか？できれば右側をきちんと1列に歩いて欲しいです。転勤族を終えて、最後の住み家として、選んだ土地にある小学校がとても素晴らしいので老後はできるだけ、学校のために、何かお手伝いしたいと考えております。宜しくお願い致します。
- 特定の出身園（幼稚園、保育園）で生徒の評価（固定的な見方）をするような事は子ども達の可能性をつぶしてしまうのではと懸念しております。周囲からは貴校の教師に対する不安や不信の声を時折耳にします。他校と比べても丁寧さに欠けるのではと思うことがありました。地域性もあり、配慮の必要な児童が多いであろう事、お察しします。又皆様の日々の奮闘には頭の下がる思いです。おこがましいですが、力ではなく、豊かな人間性と魅力で、生徒を引き付けられるような又生徒があこがれる存在でいて欲しいと願います。
- 日頃は児童の教育のため本当にご苦労さまです。時代もかわり家庭教育も学校側の面もある様に思いますますご負担も大と思われます。学校に出向く事も少なく申し訳ございませんが、良く近くを通り児童達ののこにこして挨拶は嬉しく思います。今後共よろしくお願い致します。教育目標もしっかりしております。
- 保護者、児童の肯定的回答がすべて、80%以上になっているが、もっと具体的に詳細回答もあると良かった。自分も同じ様な思いをした事がありますが、学校に訪問した際に教職員の方からあいさつされなかった事を寂しく思いました。誰が訪問しても気持ち良くあいさつされる学校であってほしいと感じました。 地域の方々は、かなり学校に対して、協力的だと思いますが、もう少し学校側が地域に協力的に動いてほしいと感じました。
- 良い環境の中で児童たちは、勉強に育成に励んでいると思います。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 今年度の成果と課題を受けた「次年度の方針」に基づき、児童がさらに充実した学校生活が送れるようにするため、「主な取組」を具体的に設定し、「評価指標」達成のための活動を積極的に推進する。「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育推進計画」「宇都宮市小中学校体力向上計画」等の趣旨を踏まえ、見直しを図る。
- 「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで、授業力を高め、学力向上への取組をさらに推進する。指導法の工夫、学習習慣の確立、家庭学習の充実等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 自分の思いや考えなどを的確に表現できる力やコミュニケーション能力における学び合う力、伝え合う力の育成に継続して取り組んでいくために、日常生活の多様な場において「書く」活動を取り入れ、掲示資料や具体的な活動、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫したり、ＩＣＴを効果的に活用した授業を展開したりする。
- 一人一授業を継続し、教職員同士の学び合いを通して、授業力を向上させる。
- 「読書活動の推進」では、宇都宮市の設定数値を上回っているが、さらに、学校・家庭において読書の日常化を広めるために、読書指導の工夫、学校図書館の活用の見直し、親子読書の勧め等を積極的に展開する。
- 「心の教育」を推進し豊かな心を育てるため、今後も、全学級一斉の道徳の授業公開、ふれあい活動、なかよしチャレンジ、幼稚園・保育所との交流活動等、学校・家庭・地域が連携した取組をより一層推進する。なお、平成25年度の宇小教研道徳部会の授業会場校となることを好機ととらえ、「豊かな心で共に生きる子どもを育む道徳教育」を研究主題とした学校課題研修に着手する。
- 児童の体力・健康や食生活の向上については、「うつのみや元気っ子プロジェクト」に基づき、教科体育の充実、食育の推進を図る。
- 「あいさつ」等については、今後も教職員が率先してあいさつを心がけ、速やかで親切的な対応に努め、児童・保護者・地域住民と積極的にコミュニケーションを図ることにより、連携・協力態勢を強化し、学校を核とした家庭・地域の教育環境の充実を図る。
- 児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感をもたせるような積極的な児童指導を推進するとともに、どんな問題も全校体制で当ることを常に確認しながら進めることを継続する。
- 学校だより・各種たより・ホームページのより一層の充実を図り、学校の情報発信・提供に努め、さらに信頼される学校づくりを推進する。